

## 2016 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会 議事次第

日 程：2017 年 3 月 8 日(水) 13:30～16:00

会 場：一橋大学一橋講堂中会議場

(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2 階)

### 議 事:

- 1) 開会挨拶
- 2) 会則規程について (資料 1)
- 3) 入会状況について
- 4) 2017 年度の会長選出について
- 5) 2017 年度の監事選出について
- 6) 2017 年度の運営委員会委員について (資料 2)
- 7) 2016 年度の機関リポジトリ推進委員会作業部会及びタスクフォース活動報告 (資料 3)  
について
- 8) 2017 年度の事業計画及び体制について (資料 4)
- 9) 2017 年度の作業部会、タスクフォース活動計画について (資料 5)
- 10) 2017 年度の予算について (資料 6)
- 11) その他

### 資料:

- 資料 1-1) オープンアクセスリポジトリ推進協会会則
- 資料 1-2) オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程
- 資料 1-3) オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程
- 資料 2) 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)運営委員会委員(案)
- 資料 3) 2016 年度機関リポジトリ推進委員会作業部会及びタスクフォースの活動(報告)
- 資料 4) 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)事業計画(案)
- 資料 5) 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)作業部会・タスクフォース活動  
計画(案)
- 資料 6) 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)予算(案)

参考資料 1) 2016 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)総会出席者名簿

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則

平成 28 年 7 月 27 日  
制 定

第 1 章 総則

(設置)

第 1 条 本会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）と称する。  
英語名称は、Japan Consortium for Open Access Repository とし、略称を JPCOAR とする。

(目的)

第 2 条 協会は、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的とする。

2 協会は、前項の目的を達成するために、国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所との間に締結された協定書に基づき設置された大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議と連携して活動する。

(定義)

第 3 条 この会則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 リポジトリ 実験や調査で得られたデータなどの学術成果物を生成するまでに収集される中間生成物（以下「研究データ」という。）を含め、学術的な情報を電子的に保存し公開するものをいう。

二 オープンアクセス リポジトリ等を利用して学術論文等の学術成果物を無料で公開することをいう。

三 オープンサイエンス 学術論文等の完成された学術成果物のみならず、リポジトリ等を利用して研究データ等の中間的な生成物を活用できる形で公開することをいう。

(事業)

第 4 条 協会は、第 2 条の目的を達成するために次の重点目標を掲げ、事業を実施する。

一 オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善

二 リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用

三 リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実

四 担当者の人材育成のための研修活動

五 国際的な取組みに対する積極的連携

六 前各号のほか、協会の目的を達成するために必要な事業

## 第2章 組織

(会員の資格)

第5条 協会の会員資格は次のとおりとする。

- 一 国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協議会、私立大学図書館協会のいずれかに属する図書館
- 二 国立情報学研究所共用リポジトリサービスを利用する機関のリポジトリを担当する部局等
- 三 国立情報学研究所
- 四 その他、協会の目的に賛同する大学図書館等の施設であって、運営委員会が認めたものの

(会長)

第6条 協会に会長を置く。

- 2 会長は、第10条に定める総会において、会員の中から選出する。
- 3 会長の任期は1年とし、期間は4月1日から翌年3月31日までとし、再任を妨げない。ただし、引き続き3年を超えて在任することはできない。
- 4 会長に選出された会員の長は、協会を代表する。

(監事)

第7条 協会に監事2を置く。

- 2 監事は、第10条に定める総会において、会員の中から選出する。
- 3 監事の任期は1年とし、期間は4月1日から翌年3月31日までとし、再任を妨げない。ただし、引き続き2年を超えて在任することはできない。
- 4 監事に選出された会員の長又は長を代理する者は、協会の会計を監査し総会で報告する。

(運営委員会)

第8条 協会を運営するために運営委員会を設置する。

- 2 前条第4項の者は、運営委員会の委員になることができない。
- 3 その他、運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第9条 協会の事務局は、国立情報学研究所に置く。

## 第3章 総会

(総会)

第10条 会長は、毎年1回通常総会を招集しなければならない。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、臨時総会を招集することができる。
- 3 前項に定めるもののほか、会員の10分の1以上から総会の招集を請求されたときは、

会長は、臨時総会を招集しなければならない。

4 臨時総会は、会員に文書等で議事に対する賛否を問うことにより代えることができる。

(議長)

第11条 議長は、第6条第4項の者が務める。

(定足数)

第12条 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。なお、委任状の提出をもって出席に代えることができる。

(議事)

第13条 次の事項は、通常総会において、承認を得なければならない。

- 一 年度事業の実施および計画に関する事項
- 二 会費の徴収および会計に関する事項
- 三 その他、必要とされる事項

## 第4章 参加及び脱退

(参加及び脱退)

- 第14条 協会に参加を希望するものは、別に定める参加申請書を会長に提出しなければならない。
- 2 協会からの脱退を希望する会員は、会長に脱退届を提出しなければならない。
- 3 会員の参加又は脱退に関する処理は運営委員会で行い、総会で報告する。

## 第5章 会計

(会計年度)

第15条 協会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌3月31日に終わる。

(会費)

第16条 会員の会費に関し必要な事項は、別に定める。

## 第6章 会則の変更等

(会則の変更)

第17条 この会則は、総会において会員総数の3分の2以上の同意がなければ、変更することができない。

(解散)

第18条 協会を解散する場合は、総会において会員総数の4分の3以上の同意がなければならない。

## 第7章 雑則

第19条 この会則に定めるもののほか、この会則の施行について必要な事項は、別に定める。

### 附 則

本会則は、平成28年7月27日から施行する。

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程

平成 28 年 7 月 27 日  
制 定

(設置)

第 1 条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）第 8 条の規定に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 運営委員会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の円滑な運営のため、会則第 4 条に定める事業を企画・立案し、実施することを目的とする。

(委員)

第 3 条 運営委員会は、協会会員である施設等の職員 15 名以内により組織する。

2 運営委員会の委員は、会則第 10 条の総会（以下「総会」という。）において決し、会則第 6 条第 4 項の者が委嘱する。

3 総会で必要と認められた場合、協会会員である施設等の職員以外の者を委員とすることができる。なお、この場合の委員も第 1 項に定める定員に含むものとする。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は 1 年とし、期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第 5 条 運営委員会に委員長を置く。

2 委員長は委員の互選により選出する。なお、再任を妨げない。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を行う。

(作業部会)

第 6 条 運営委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。

2 作業部会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 運営委員会の委員

二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員

三 その他、運営委員会が必要と認められた者

3 作業部会に主査を置く。主査は、前項第 1 号の委員のうちの一をもって充てる。

4 主査及び作業部会員は、委員長が委嘱する。

5 作業部会員の任期は 1 年とし、期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

6 作業部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、協会の事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

第3条の規定に関わらず、当面は大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に設置された機関リポジトリ推進委員会をもって運営委員会に代える。

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程

平成 28 年 7 月 27 日  
制 定

(総則)

第 1 条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下、「会則」という。）の第 16 条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下、「協会」という。）の会費に関して必要な事項を定めるものとする。

(会費の区分)

第 2 条 協会の会費は、以下の各号に掲げる区分で構成する。

- 一 基本会費
- 二 JAIRO Cloud 利用料金

(基本会費)

第 3 条 第 2 条第 1 号の基本会費は、別紙 1 の表 1 「基本会費」のとおりとする。

- 2 協会は、支払済みの会費を返還しない。

(JAIRO Cloud 利用料金)

第 4 条 第 2 条第 2 号の JAIRO Cloud 利用料金は、別紙 2 の表 2 「JAIRO Cloud 利用料金」のとおりとする。

- 2 JAIRO Cloud サービスの利用を希望する機関は、前条で定める基本会費に加え、前項で定める JAIRO Cloud 利用料金を支払うものとする。
- 3 協会は、支払済みの JAIRO Cloud 利用料金を返還しない。

(基本会費の納入)

第 5 条 会員は、毎年、協会の事務局が指定する期日までに基本会費全額を納入するものとする。

- 2 基本会費の分納は、認めないものとする。
- 3 基本会費は、協会の事務局が指定する金融機関に振り込むものとする。
- 4 年度の途中から入会した場合は、原則として、入会が承認された翌月の末日までに、年額を納入するものとする。

(JAIRO Cloud 利用料金の納入)

第 6 条 JAIRO Cloud を利用する会員は、利用開始後、および、継続の場合は毎年、協会の事務局が指定する期日までに当該年度（4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までをいう。）の JAIRO Cloud 利用料金の年額を納入するものとする。



- 2 JAIRO Cloud 利用料金の分納は、認めないものとする。
- 3 JAIRO Cloud 利用料金は、協会の事務局が指定する金融機関に振り込むものとする。
- 4 年度の途中から利用を開始した場合は、原則として、利用が承認された翌月の末日までに所定の額を納入するものとする。

(支援金)

第7条 会員及び会員以外の個人または団体が会費以外の負担（「支援金」という。）を希望する場合は、運営委員会の承認を受けるものとする。

- 2 運営委員会委員長は、前項の事実が発生した場合には総会において報告を行うものとする。

(会費の管理)

第8条 会費および支援金の管理は、協会の事務局を置く国立情報学研究所において行う。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

別紙 1

1. 第2条第1号の基本会費は、次の表1のとおりとする。

表1 基本会費

区分	構成員数	会費額（年額）
A	0 ～ 600 人	20,000 円
B	601 ～ 1,100 人	40,000 円
C	1,101 人～	60,000 円

- 1) 本表における「構成員数」とは、当該の利用機関に所属する「常勤の教員及び研究者」の人数とする。
- 2) 常勤の教員及び研究者を置かない機関にあつては、区分Aの会費を適用する。
- 3) 年度（4月1日から翌年3月31日までをいう。）途中で入会した場合も、年額の全額を基本会費とする。
- 4) 次年度以降、引き続き会員資格を継続利用する場合は、当該年度ごとに年額の基本会費を支払うものとする。

別紙 2

1. 第2条第2号の JAIRO Cloud 利用料金は、次の表 2 のとおりとする。

表 2 JAIRO Cloud 利用料金

区分	構成員数	JAIRO Cloud 利用料金（税抜き・年額）
1	0 ～ 100 人	40,000 円
2	101 ～ 200 人	80,000 円
3	201 ～ 300 人	120,000 円
4	301 ～ 400 人	160,000 円
5	401 ～ 500 人	200,000 円
6	501 ～ 600 人	240,000 円
7	601 ～ 700 人	280,000 円
8	701 ～ 800 人	320,000 円
9	801 ～ 900 人	360,000 円
10	901 ～ 1,000 人	400,000 円
11	1,001 ～ 1,100 人	440,000 円
12	1,101 ～ 1,200 人	480,000 円
13	1,201 ～ 1,300 人	520,000 円
14	1,301 ～ 1,400 人	560,000 円
15	1,401 ～ 1,500 人	600,000 円
16	1,501 人～	640,000 円

- 1) 本表における「構成員数」とは、当該の利用機関に所属する「常勤の教員及び研究者」の人数とする。
- 2) 常勤の教員及び研究者を置かない機関にあつては、区分 1 の利用料金を適用する。
- 3) 年度（4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までをいう。）途中で利用開始となる場合には、利用開始月の翌四半期から当該年度末までの四半期ごとに上記の料金の 4 分の 1 を乗ずる額の合計額を年間定額料金とする。1 円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てる。
- 4) 次年度以降、引き続き本サービスを継続利用する場合は、当該年度ごとに年額の利用料金を支払うものとする。
- 5) 国立情報学研究所は、本料金表の額に、消費税を加えた額を請求する。

## 資料 2

## 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 運営委員会委員 (案)

(2017 年 3 月 8 日現在)

氏 名	所属・役職	区分
行木 孝夫	北海道大学大学院理学研究院数学部門准教授	(退任)
富田 健市	北海道大学附属図書館事務部長	(退任)
(新規選出)	北海道大学附属図書館	国立 (新規)
尾城 孝一	東京大学附属図書館事務部長	(退任)
(新規選出)	東京大学附属図書館	国立/JC (新規)
江川 和子	筑波大学学術情報部長	国立/JC (継続)
高橋 菜奈子	千葉大学附属図書館学術コンテンツ課長	国立 (継続)
森 一郎	新潟大学学術情報部学術情報管理課長	(退任)
島 文子	京都大学附属図書館図書館企画課長	国立 (継続)
尾崎 文代	鳥取大学附属図書館図書館情報課長	国立 (新規)
池田 大輔	九州大学大学院システム情報科学研究院准教授	(退任)
山本 和雄	琉球大学附属図書館事務部長	国立 (継続)
大野 利彦	神戸市外国語大学学術情報センターグループ長	公立/JC (継続)
菊池 亮一	明治大学学術・社会連携部・部長	(退任)
鈴木 正紀	文教大学越谷図書館館長補佐	私立/JC (新規)
荘司 雅之	早稲田大学図書館事務部長	私立/JC (新規)
佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター助教	教員 (継続)

安本 裕和	関西学院大学図書館事務部長	(退任)
加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館	私立/JC (新規)
増井 ゆう子	国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター事務室副室長	大学共同利用機関 /JC (新規)
山地 一禎	国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター(コンテンツ科学研究系) 准教授/学術リポジトリ推進室長	NII (継続)
細川 聖二	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	NII (継続)
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長	(退任)

※ 委員が人事異動等により委員を継続することが困難な場合、別途、運営委員会において後任候補を選定し、協会会員の承認を得ることにより、後任委員を決定することとする。

# 2016年度機関リポジトリ推進委員会 作業部会及びタスクフォースの活動 (報告)

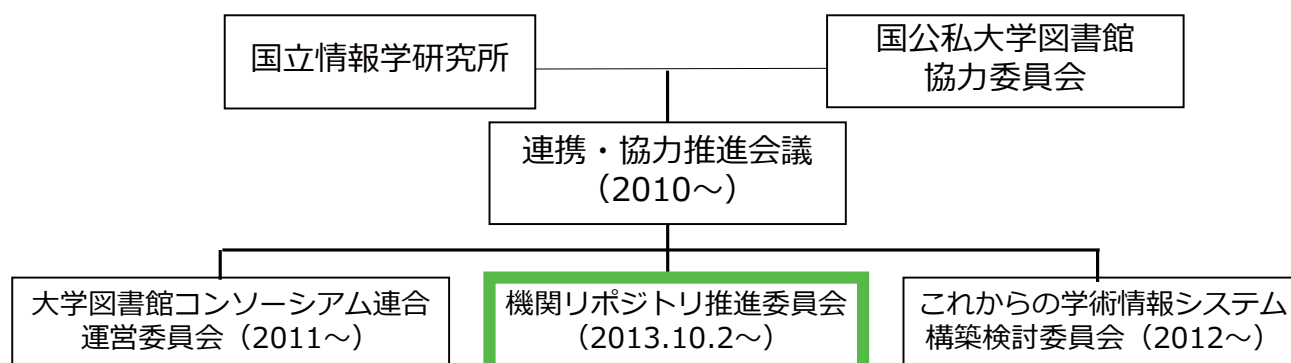
機関リポジトリ推進委員会

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

## 機関リポジトリ推進委員会

『国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における  
連携・協力の推進に関する協定書』（2010年10月締結、2016年2月改訂）

1. バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
2. 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
3. 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
4. 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
5. 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進



# 重点課題

## 『大学の知の発信システムの構築に向けて』（2013年） 通称『竹橋宣言』

### 大学の知の発信システムの構築に向けて

平成 25 年 12 月 13 日  
機関リポジトリ推進委員会

本委員会は、学術情報流通に関する以下の現状認識と将来展望に基づき、戦略的重点課題を定め、機関リポジトリの一層の推進を通じてこれらの解決に取り組む。

#### 1. 現状認識

2005 年の千葉大学学術成果リポジトリ（CURATOR）、早稲田大学リポジトリに始まったが国の機関リポジトリは、国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業及び学術機関リポジトリ構築連携支援事業の支援によって急速に拡大し、2012 年の JAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）の開始もあり、公開機関数は現在では 394 を数えている。これは世界第 2 位の数値である。一方、2011 年度には機関リポジトリのコンテンツ数は全体で 100 万件に上り、アクセス件数は 8,303 万件と利用されている。利用の内訳を見ると研究者間コミュニケーションの補充に加え、公衆からの利用も多い。このように機関リポジトリは一定の成果をあげてきたが、そのコンテンツは学術論文のようないくつかの分野に偏り、公開されてきた文獻が大部分を占め、オープンアクセスの推進に十分貢献しているとはいえない。これは運用のための人的・財的資源の持続的確保が難しいことが一つの原因として考えられ、大学の知の発信システムとしてその価値を十分に認知されているとはいえない状況である。

#### 2. 将来展望

機関リポジトリは大学における研究成果発信（公表）の基盤及び機関の教育研究成果のショーケースとして一定の成長を遂げたが、大学に所属する個々の研究者の日々の生産物のセルフアーカイビングのメディアとして更に拡張・発展するためには、大学図書館のコミュニティと国立情報学研究所が協力・連携し、現状認識で挙げた問題を解決する必要がある。それによって今後、機関リポジトリは、大学の教育研究活動のあらゆる成果の蓄積と徹底的なオープンアクセス化を担うことにより、インターネット環境下における大学の情報インフラの中核となり、教育研究戦略に必要な情報を大学に供給し、それによって学術情報流通システムを変革していくこととなる。

1. オープンアクセス方針の策定と展開
2. 将来の機関リポジトリ基盤の高度化
3. コンテンツの充実と活用
4. 研修・人材育成

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

2

IRPC Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

## 機関リポジトリ推進委員会

### 常置の作業部会（基幹業務のサポート）

JAIRO Cloud 運用作業部会
•JCの安定運用と機能改善 •JCへの移行サポート •JCコミュニティ支援 •SCPJの移行準備

広報作業部会
•イベント・説明会等の開催 •Web、facebookの編集・管理 •国際協力のための海外派遣

研修作業部会
•新任担当者研修

### アドホックなタスクフォース（先端的なプロジェクト）

研究データTF
•RDM トレーニング ツールの開発 •ケーススタディによる 研究データ管理ノ ウハウの蓄積

論文OA TF
•オープンアクセス方 針策定支援 •ポリシー策定後の実 施支援 •OA 評価・トラッキ ング

メタデータ検討TF
•Junii2に代わる新た なメタデータスキ マの設計 •国内リポジトリへの 適用・実装支援

指標・評価・メ トリックスTF
•IRDB コンテンツラン キングの公開 •アクセス統計提供 サービス •アクセスログ解析

ORCID TF
•ORCIDコンソーシア ムの創設に向けた情 報収集と検討

COAR Asia TF
•アジアでのOAコミュ ニティの形成

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

3

IRPC Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

# JAIRO Cloud運用作業部会

- JAIRO Cloud移行サポート
- JAIRO Cloud掲示板のサポート
- JAIRO Cloud機能改善の検討
- JPCOARによるSCPJの運用の検討

## 活動内容

1. JAIRO Cloud移行サポート
  - 2016年12月16日に勉強会を実施（会場9名＋TV会議6名が参加）
  - 勉強会の資料の公開、移行FAQのとりまとめ
  - 2017年度も引き続き勉強会の実施を予定
2. JAIRO Cloud掲示板のサポート
  - 掲示板に寄せられた質問への回答（約15件）
  - コミュニティサイトのあり方についても検討
3. JAIRO Cloud機能改善の検討
  - WEKO ver2.3.0へのアップデートの評価に協力
  - 次期JAIRO Cloud開発に向けてNIIと協議
4. JPCOARによるSCPJの運用の検討
  - 安定的な維持・運用のため、JPCOARによる管理体制への移行の必要性について確認



# 広報作業部会

- 広報
- イベント企画実施
- 国際協力

## 活動内容

### 1. 広報

- 機関リポジトリ推進委員会及びJPCOARの広報（ウェブサイト、facebook等）
- JPCOAR新パンフレットの作成

### 2. イベント企画運営

- 2016.5.26 NIIオープンフォーラム
- 2016.7.27 JPCOAR設立総会
- 2016.11.9 図書館総合展フォーラム
- 2016.12.2 地域ワークショップ（中国四国地区）
- 2017.3.8 JPCOAR総会

### 3. 国際協力

- COAR Annual Meeting 2016.4.12-13（Wien）
- Open Repositories 2016.6.13-16（Dublin）
- JISCのNeil Jacobs氏との情報交換会 2016.11.8（NII）

# 研修作業部会

- ・ 新任担当者研修の実施

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

8

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

## 新任担当者研修の実施

第1回	6月23日～24日	国立情報学研究所	参加32名/申込62名
第2回	7月28日～29日	国立情報学研究所	参加32名/申込60名
第3回	8月22日～23日	長崎国際大学	参加20名/申込23名
第4回	9月13日～14日	神戸松蔭女子学院大学	参加23名/申込44名
第5回	10月27日～28日	国立情報学研究所	参加32名/申込57名

1日目	
10:30-10:40	開講式
10:40-11:30	機関リポジトリ概論
11:30-12:00	グループ討議
13:00-13:45	システム管理・メタデータ
14:00-15:05	著作権及び著作権譲渡契約
15:05-16:05	研究者から見たリポジトリ
16:15-17:25	コンテンツ登録実習

2日目	
9:30-10:00	事例報告（2例）
10:00-10:45	コンテンツ構築
10:45-11:15	模擬説明会
11:15-11:45	グループ討議
12:45-13:45	質疑応答・ディスカッション
13:45-14:00	閉講式
14:20-17:00	補講（JAIRO Cloud実習）

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

9

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

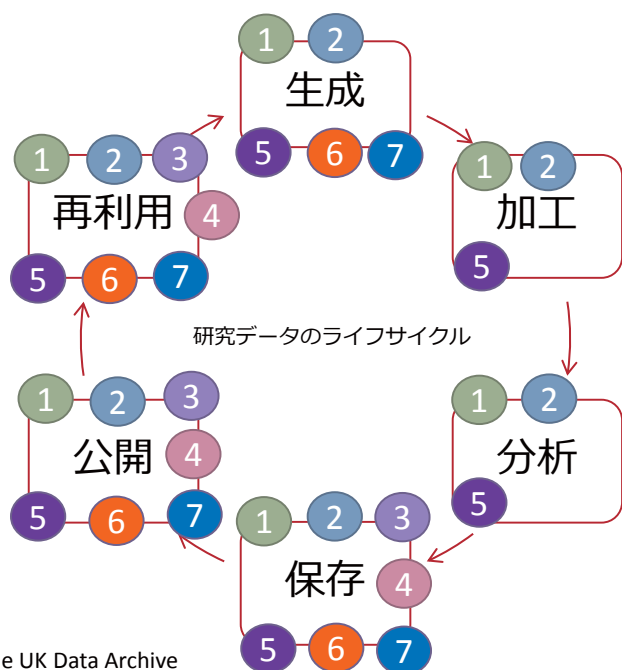
# 研究データタスクフォース

- RDMトレーニングツールの開発
- ケーススタディによる研究データ管理ノウハウの蓄積

## RDMトレーニングツールの開発

- 目的
  - 学習者が研究データ管理（RDM: Research Data Management）に関する基礎的な知識を習得する
  - RDMサービス構築の足掛かりを得る
- 内容
  - 全7章から構成されるeラーニング教材（MOOCにて提供予定）
  - 各章は、スライドとスクリプトで提供し、確認テストやワークを取り入れる
- 受講対象者
  - 図書館、IT部門、研究支援部門の職員（URA）等
  - オープンサイエンスや研究データ管理に関心のある教職員

# データのライフサイクルと教材の構成



• The UK Data Archive  
( <http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle> )  
• RDM Support - basic training course for information specialists  
( <http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313> ) より

- ① 1章 導入
- ② 2章 データ管理計画
- ③ 3章 保存と共有
- ④ 4章 組織化・メタデータ
- ⑤ 5章 法倫理的問題
- ⑥ 6章 ポリシー
- ⑦ 7章 サポートサービスの検討

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

12

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

## シラバス

### 第1章 導入

研究データ管理の重要性が増している背景や、研究データ、研究データ管理の定義について。

### 第2章 データ管理計画

効果的なデータ管理に欠かせないデータ管理計画に関し、作成義務化の動向や、その構成要素について。

### 第3章 保存と共有

研究データの、研究期間中の保管や長期保存に関する留意点について。研究データの共有に関し、その意義や検討すべき点、共有方法について。

### 第4章 組織化・メタデータ

研究データを長期的に管理・活用するために欠かせない、一定のルールに則ったデータの組織化や、データについて説明する文書やメタデータの作成について。

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

13

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

# シラバス（続）

## 第5章 法倫理的問題

研究データをめぐる著作権や、再利用を促進するためのライセンスの仕組みについて。センシティブデータを取り扱う上での留意点や研究倫理について。

## 第6章 ポリシー

国や助成団体、機関、出版者等による、研究データの保存や共有を求めるポリシー策定の動向や要件について。

## 第7章 サポートサービスの検討

前章までの内容を踏まえ、学習者が自機関での研究データ管理サービスを構築していくためのステップについて。

# ケーススタディ

## 1. デジタル・ヒューマニティ

- 科研費（H21～23年度）の研究成果公開促進費による人社系のデータベースの現状を調査
- 継続的な維持管理が困難な人社系データベースの救済策の検討

## 2. データジャーナル

- データジャーナル刊行のためのプラットフォームに必要な要件として、編集・査読システムとの連携、推奨データリポジトリの要件、データの真正性担保の手法について検討
- データジャーナルの構築・運用に求められる技術、能力について検討

# 論文OAタスクフォース

- OA方針策定支援
- OA実施支援
- OA評価・トラッキング

## 活動内容

### 1. OA方針策定支援

- ①OA方針策定ガイド、②実施計画例（ロードマップ）、③OA方針の雛形、④OAの理解を促進するための説明資料、⑤ROARMAP登録手順の5点の作成と公開に向けた準備
- OA方針策定機関のリストの公開

### 2. OA実施支援

- OA方針策定済み大学を対象としたアンケート調査について検討（実施は2017年度当初の予定）

### 3. OA評価・トラッキング

- KAKENの雑誌論文とIRDBのJournal Articleの照合を実施

# OA方針策定の支援ツールの公開

- オープンアクセス方針策定ガイド

<http://id.nii.ac.jp/1458/00000021/>

はじめに

第1章 OA方針の策定・実施

OA方針実施計画〔フェーズ1. 計画〕

OA方針の設計、採択〔フェーズ2. 方針案策定・作成〕

OA方針認知度向上〔フェーズ3. プロモーション・認知向上〕

OA方針を実施する〔フェーズ4. 実施〕

フォローアップ〔フェーズ5. フォローアップ〕

第2章 OA方針の構成要素

付録1. 実施計画例

付録2. OA方針雛形

付録3. オープンアクセスとは

付録4. ROARMAPの登録手順

- オープンアクセス方針・実施要領 リンク集

[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=53](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53)

## メタデータ検討タスクフォース

- 機関リポジトリ用メタデータ次期スキーマの策定
- ガイドラインの整備
- サービスイメージの提示



# 活動内容

1. 機関リポジトリ用メタデータ次期スキーマ及びガイドライン策定
  - 海外動向調査（報告書とりまとめ）
  - junii2改訂の基本方針策定
  - メタデータに関する意見交換会（2016年11月8日）
  - 新スキーマ「JPCOARスキーマ」（案）の策定
  - パブリックコメント招請中（2017年3月24日まで）
    - JPCOARスキーマガイドライン（案）への意見募集
    - [https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=54](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=54)
2. サービスイメージの提示
  - 次年度の活動に引き継ぎ

## junii2改訂の基本方針（骨子）

1. オープンサイエンス・オープンアクセス方針に対応したデータ要素の追加と整理
2. 識別子の拡充に伴うメタデータ構造の修正
3. 国際的に相互運用性の高いデータ交換のためのスキーマ定義
4. 各機関リポジトリのデータ作成とデータ提供の方式の変更

機関リポジトリ推進委員会メタデータタスクフォース『junii2改訂の基本方針』  
<http://id.nii.ac.jp/1280/00000210/>



# 指標・評価・メトリックス タスクフォース

- IRDBコンテンツランキングの公開
- アクセス統計提供サービス
- アクセスログ解析

## 活動内容

1. IRDBコンテンツランキングの公開準備
  - 公開に向けて内容を検証
2. アクセス統計提供サービス
  - IRDBコンテンツ分析に追加すべき機能を検討
3. アクセスログ解析
  - JAIRO Cloudのアクセスログを解析し、コンテンツランキングや統計提供サービスにフィードバックすることを検討

# ORCIDタスクフォース

- ORCIDコンソーシアム創設に向けた検討

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

24

**IRPC**

Institutional Repositories Promotion Committee

機関リポジトリ推進委員会

## 活動内容

- タスクフォースを立ち上げ、情報収集等の作業を開始

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

25

**IRPC**

Institutional Repositories Promotion Committee

機関リポジトリ推進委員会

# COAR Asiaタスクフォース

- アジアでのOAコミュニティの形成

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

26

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

## キックオフ会議

- 2016年3月4日、NII（RDA東京のサテライト会議として開催）
- 議題
  - 趣旨説明
  - 各国の状況の報告
    - シンガポール、香港、マレーシア、インド、日本
  - フリーディスカッション
    - 今後の活動について



<https://www.coar-repositories.org/files/Open-Access-Asia-Report.pdf>

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

27

**IRPC** Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

# 第1回会議@Kuala Lumpur (2016.11.14-16)



## Positioning Asia in the Global Movement of Open Science



November 14 – 15, 2016 Kuala Lumpur, Malaysia

Programme - November 14, 2016	
8:30-9:00	Registration
9:00-9:15	Welcome and Opening Remarks
9:15-10:30	Session 1: Open Access and Open Science Why Openness? Kathleen Shearer, Executive Director, COAR, International Current Status of OA Around the World Kostas Repanas, Open Access & Open Data manager for A*STAR, Singapore
10:30-11:00	Break
11:00-12:30	Session 2: Panel Discussion of Current Trends and Initiatives Value Added Services for Repositories Kazu Yamaji, Associate Professor, National Institute of Informatics, Japan Engaging Researchers Aron Tay, Library Analytics Manager, Singapore Management University Next Generation Repositories Kathleen Shearer, Executive Director, COAR, International Flipping from Subscriptions to OA Kostas Repanas, Open Access & Open Data manager for A*STAR, Singapore
12:30-14:00	Lunch
14:00-15:30	Session 3: Country Updates Singapore Pin Pin Yeo, Head of Scholarly Communication, Singapore Management University Japan Tadashi Takashi, Chief of Research Products Team, Scholarly and Academic Information Division, Cyber Science Infrastructure Development Department, National Institute of Informatics

Organised by Asia Open Access (A COAR Community of Practice), Universiti Putra Malaysia, Malaysian Research and Education Network, and SIFULAN Malaysian Access Federation

Informatics, Japan China Li-Ping Xu, Senior Associate Researcher, National Science Library of Chinese Academy of Sciences	
15:30-16:00	Break
16:00-17:30	Session 3: Country Updates (continued) India Devika Madali, Associate Professor, Indian Statistical Institute Hong Kong Scott Edmunds, Executive Committee Member for Open Science at Open Data, Hong Kong Discussion

Programme - November 15, 2016	
8:30-9:00	Registration
9:00-10:30	Session 4: Focus on Malaysia MAL/Rep   Malaysian Academic Library Institutional Repository TBA Malaysian Citation Centre: Roles and Responsibilities Zuraidah Abd Manaf, Head of Malaysia Citation Center, Ministry of Higher Education, Malaysia Malaysia's Identity and Access Management System Suhaimi Nagis, Deputy Director, Private and International Grants, Research Centre, Universiti Putra Malaysia
10:30-11:00	Break
11:00-12:00	Session 5: The Role of the Institution in Supporting Open Science Institutional Open Access Policy Tatsuru Tomioka, Deputy Head of Academic Support Division, Kyoto University Institutional Open Data Policy and Services Goh Su Hwee, Goh Su Hwee is heading the research data management Scholarly Communication Division in the Nanyang Technological University National University of Malaysia TBA
12:00-12:30	Session 6: Introduction to ORCID Hiroko Miyai, Regional Director, Asia Pacific for ORCID, Japan
12:30-14:00	Lunch
14:00-15:30	Session 7: Asia OA Working Together
15:30-16:00	Closing

Organised by Asia Open Access (A COAR Community of Practice), Universiti Putra Malaysia, Malaysian Research and Education Network, and SIFULAN Malaysian Access Federation



- 8カ国から 約150名参加
- 次回は2017年秋にネパールにて開催予定

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

28

IRPC Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

## 成果物の公開

ログイン

IRPC Institutional Repositories Promotion Committee

機関リポジトリ推進委員会

Top

About

Publication

Activities

Events

Contact

言語選択

言語の選択:

日本語

Publication

検索

大学への知の発信システムの構築に向けて

調査・報告書・発表資料等

トップ

ランキング

関連リンク

オープンアクセスリポジトリ推進協会

JPCOAR: Japan Consortium for Open Access Repository

国立大学図書館協会

公立大学協会図書館協議会

私立大学図書館協議会

国立情報学研究所

インデックスツリー

大学への知の発信システムの構築に向けて

委員会議事

機関リポジトリ新協議会準備会

調査・報告書

翻訳

発表資料等

International Digital Curation

Open Repositories

RDA Plenary Meeting

学術情報基盤オープンフォーラム

図書館総合展フォーラム

イベント等

インデックスリスト

大学への知の発信システムの構築に向けて [2件]

委員会議事 [112件]

機関リポジトリ新協議会準備会 [3件]

調査・報告書 [11件]

翻訳 [2件]

発表資料等 [45件]

イベント等 [54件]

<https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/>

2017/3/8

オープンアクセスリポジトリ推進協会  
第1回総会

29

IRPC Institutional Repositories Promotion Committee  
機関リポジトリ推進委員会

### 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 事業計画(案)

機関リポジトリの振興を通じて日本の学術研究成果のオープンアクセス化に寄与するため、会員相互の協力によって次の事業を展開する。

#### 1. 協会運営に係る活動

- ・ 2017 年 4 月に国立情報学研究所に事務局を設置し、運営委員会を中心とする機動的な体制を構築し、ガバナンスを確立する。
- ・ 「大学の知の発信システムの構築に向けて」（竹橋宣言）（機関リポジトリ推進委員会 2013）をアップデートし、協会の中長期目標を策定する。
- ・ 会費収入に基づき、適切な運営を行い、財政基盤の安定化に努める。
- ・ 広報・成果普及活動を通じて協会の認知度を高め、より多くの会員を募る。

#### 2. オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善

##### （1）「JPCOAR スキーマ」の普及

- ・ 研究データ等のコンテンツ拡張にも対応した新たなメタデータスキーマ「JPCOAR スキーマ」を最終確定し、6 月の NII オープンフォーラムで発表する。また、国内外に対して周知活動を行う。

##### （2）研究データマネジメント（RDM）トレーニングツールの公開と普及

- ・ 研究データマネジメントスキルを習得するためのトレーニングツールを公開し、普及、試行運用、評価を行う。

##### （3）研究者情報についての検討

- ・ 国際的な研究者識別子 ORCID（オーキッド）と機関リポジトリの連携の可能性について検討を行う。

#### 3. リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用

##### （1）JAIRO Cloud 利用機関サポートの実施

- ・ JAIRO Cloud コミュニティサイトを通じて、利用機関の業務を日常的に支援する。
- ・ JAIRO Cloud への移行を促進するため、担当者向けの勉強会（2 回）を実施する。

##### （2）JAIRO Cloud 機能改善の検討

- ・ 国立情報学研究所と連携し、次期 JAIRO Cloud の開発計画に添って、ユーザ要望の取りまとめや機能改善に関する検討を行う。

#### 4. リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実

##### （1）オープンアクセス（OA）方針策定ガイドの公開と普及

- ・ 会員館が個々に OA 方針を策定することを支援するツール「OA 方針策定ガイド」を公

開し、意見聴取、普及を行う。

(2) 学協会等への働きかけと連携

- ・ 学術雑誌等のオープンアクセス化を推進するため、学協会等の国内ステークホルダーに働きかけを行う。

## 5. 担当者の人材育成のための研修活動

(1) 研修会の開催

- ・ 6月～10月に新任担当者研修（5回）を実施する。
- ・ 研修教材のアップデート、オンライン教材の開発に取り組む。

## 6. 国際的な取組みに対する積極的な連携

(1) 国際連携

- ・ 機関リポジトリの振興改善に向けた国際的な取組みに参画し、日本の機関リポジトリの研究成果発信の効果を高めるため、オープンアクセスリポジトリ連合（Confederation of Open Access Repositories、COAR）に加盟する。

(2) 海外派遣

- ・ 国際的に活動できる人材を育成するため、会員館の職員を国際会議や海外の先進施設等へ派遣する。

## 7. 広報・情報提供に係る活動

(1) ウェブサイト等による情報提供

- ・ 協会内での情報共有と対外的な広報普及を図るため、ウェブサイト、Facebookの編集・管理を行う。また、新たに広報誌の企画・発行を行う。

(2) 関連団体が主催するイベント等への参加等

- ・ 関連団体が主催するイベントや広報媒体等を活用し、広報普及活動を行う。

## 8. 会議等

(1) 総会

- ・ 年1回の通常総会を開催する。  
時期： 2018年2月～3月（予定）  
会場： 学術総合センター内（予定）

(2) 運営委員会

- ・ 年3回の開催とする。
- ・ 運営委員会委員長が必要と認めた場合は、追加して開催する。

(3) 作業部会等

- ・ 必要に応じて、作業部会、タスクフォース等の打合せを開催する。

2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)  
作業部会・タスクフォース活動計画(案)

我が国におけるオープンアクセス基盤の安定的運用とオープンアクセス・オープンサイエンスにかかる先端的機能の開発のため、運営委員会の下に作業部会およびタスクフォースを置き、2017 年度は次の活動を行う。

## I. 作業部会

### 1. JAIRO Cloud 運用作業部会

#### (1) JAIRO Cloud 利用サポート

- ・ コミュニティサイトの運営を通じて、利用機関を日常的にサポートする。
- ・ 研修作業部会と連携し、JAIRO Cloud 操作説明に係る研修会を企画・実施する。

#### (2) JAIRO Cloud 移行サポート

- ・ JAIRO Cloud への移行を促進し、移行作業の負担を軽減するため、担当者向けの勉強会を実施する。また、先行事例や知見を共有する仕組みを構築する。

#### (3) JAIRO Cloud の機能改善に関する検討

- ・ NII と連携し、次期 JAIRO Cloud の開発計画に添って、ユーザ要望の取りまとめや機能改善に関する検討を行う

### 2. 研修作業部会

#### (1) 新任担当者研修

- ・ リポジトリ担当者の人材育成を目的として、新任担当者研修を年 5 回実施する。  
開催時期：6 月～10 月（例年どおり）  
会 場：国立情報学研究所（地方開催無し）
- ・ 研修講師及び補助者については会場近隣の協会会員施設から応援を集め、JAIRO Cloud に関する具体的な研修については JAIRO Cloud 作業部会との連携において実施する。

#### (2) 教材等の作成提供

- ・ 研修教材のアップデートを図ると共に、オンライン教材の開発に取り組む。JAIRO Cloud に関する教材等については、JAIRO Cloud 作業部会との連携において実施する。

### 3. 広報普及作業部会

#### (1) ウェブサイト等による情報提供

- ・ 協会内での情報共有と対外的な広報普及を図るため、ウェブサイト、Facebook の編集・管理を行う。また、新たに広報誌の企画・発行を行う。

#### (2) 関連団体が主催するイベント等への参加

- ・ 関連団体が主催するイベントや広報媒体等を活用し、活動成果の広報普及活動を行う。

## II.タスクフォース

### 1. 研究データタスクフォース

- (1)「研究データ管理スキル習得のためのトレーニングツール」の公開と普及
- ・ 研究データ管理のスキルを習得するためのトレーニングツールを Web 上で公開し、各種媒体、イベントを通じた広報普及活動を行う。
- ・ 利用者からのフィードバックをトレーニングツールの改善に反映させる。

### 2. 研究者情報連携タスクフォース

- (1) 研究者情報についての検討
- ・ 国際的な研究者識別子 ORCID（オーキッド）と機関リポジトリの連携の可能性について検討を行う。

### 3. OA 方針成果普及タスクフォース

- (1) OA 方針策定ガイドの充実と普及活動
- ・ OA 方針策定ガイドの広報普及活動を行う。
- ・ OA 方針策定済機関へのアンケート調査を行い、フィードバックを OA 方針策定ガイドに反映させ、より実態に即した内容に充実させる。
- (2) OA 方針リンク集の継続と拡充
- ・ OA 方針リンク集を充実させるとともに、リンク集の運営方法を検討する。

### 4. メタデータ普及タスクフォース

- (1)「JPCOAR スキーマ」の確定と周知
- ・ 国内動向・国際動向を見極め、最終調整のうえ、新スキーマを確定し、各種媒体、イベントで JPCOAR スキーマを周知する。国際的なデータ流通の観点から OR2017 等の国際会議でも周知活動を行う。
- (2) 解説およびサービスイメージの提示
- ・ JPCOAR スキーマの解説やデータの活用例などを作成する。
- (3) COAR Controlled Vocabularies Editorial Board へのメンバー派遣
- ・ オープンアクセスリポジトリ連合 (Confederation of Open Access Repositories、COAR) の検討グループと継続して情報交換ができる体制を築く。

#### 作業部会員の推薦方法

参加機関からの推薦とします。

後日、事務局から推薦者登録フォームのご案内をします。



## 2017 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR) 予算(案)

## &lt;収入の部&gt;

科目	2017 年度予算額	備考
1. 会費	10,360,000	2017 年度会員館数：444 館（予定） 会費区分 A: 6 万円×22 館＝132 万円 会費区分 B: 4 万円×30 館＝120 万円 会費区分 C: 2 万円×392 館＝784 万円 ※会員館数増加により収入増の見込み
計	10,360,000	

(円)

## &lt;支出の部&gt;

科目	2017 年度予算額	備考
1. 事務協力費	3,500,000	事務局職員の出向元機関に対する事務協力費 350 万円／人×1 人＝350 万円
2-1. 運営委員会 開催旅費	1,000,000	運営委員会（3 回及び総会）
2-2. 運営委員会 活動費	860,000	新規事業（TF の設置、調査、評価、関連団体等との連携） 対応諸経費
3-1. 総会会場費	250,000	総会会場の施設利用費 （一橋大学中会議場）
3-2. 総会運営補 助旅費	200,000	総会時の運営補助（作業部会員）の旅費
4-1. 作業部会活 動費	1,800,000	JAIRO Cloud 運用作業部会：500 千円 研修作業部会：800 千円 広報普及作業部会：500 千円
4-2. タスクフォ ース活動費	1,500,000	メタデータ普及 TF：300 千円 OA 方針成果普及 TF：250 千円 研究データ TF：700 千円 研究者情報連携 TF：250 千円
5. 国際連携活動 費	1,250,000	海外派遣旅費（COAR、OR）：950 千円 COAR 会費：300 千円
計	10,360,000	

(円)

※ 支出のうち、事務局運営費及び旅費の不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出予定。